

組合だより

スゴいぞ!
牛乳

JA

おからく

2024

9

vol.267

令和6年9月13日発行

発行：おかやま酪農業協同組合

責任者：小椋 孝史

津山市川崎94-1

☎(0868)26-1101

令和5年度

「牛乳大好き！絵画コンクール」受賞作品



優秀賞 教育長賞 岡山市立高島小学校2年 矢部 陽葵

(絵の説明)

わたしとうしがなかよくしているところをかきました。大すきな牛乳と、こんな牛乳パックがあったらいいなとおもいかきました。

現況調査まとまる

乳牛総頭数は14,211頭

令和6年8月1日現在での現況調査を行いましたので、その結果をご報告いたします。組合員の皆様には、ご協力いただき、ありがとうございました。

☆戸数・頭数

乳牛の飼養戸数及び頭数は（表1）のとおり148戸、14,211頭と前年8月に比べ戸数では10戸、頭数では18頭の減少となりました。品種別ではホルスタイン種は12,647頭（70頭減）、ジャージー種他は1,564頭（52頭増）でした。

飼養戸数の内訳は、（表2）のとおり関係機関を除く搾乳農家が145戸、育成農家3戸、関係機関4戸です。また、肉用牛飼養農家は40戸でした。

経産牛頭数は10,685頭（7頭増）、育成牛頭数は3,526頭（25頭減）。搾乳農家1戸当たりの平均飼養頭数は96・0頭（5・9頭増）、平均経産牛頭数は72・2頭（4・6頭増）。育成牛率は24・8%となりました。

☆各地区の飼養状況

乳牛飼養総頭数を地区ごとに見ると（表1）西大寺地区が8頭減、備南地区が83頭増、びほく地区が81頭減、勝英地区が48頭減、津山地区が93頭減、真庭地区が129頭増となりました。全体では18頭の減少となっております。

また、育成牛率で全体の平均より高い地区は真庭、西大寺、津山の順となっています。

☆飼養頭数別の酪農家戸数

（表3）の飼養頭数別酪農家戸数をみると30頭未満の飼養農家は40戸（26・3%）、30頭から49頭の飼養農家は37戸（24・3%）、50頭から79頭の飼養農家は37戸（24・3%）、80頭から149頭の飼養農家は23戸（15・1%）、150頭から499頭の飼養農家は12戸（7・9%）、500頭以上の飼養農家は3戸（2・0%）となっています。

☆哺育素牛・肥育・和牛繁殖関係の頭数

哺育素牛・肥育・和牛繁殖牛の総頭数は8,893頭です。うち哺育農家、肥育農家、和牛繁殖農家の飼養するホルスタイン・F1・和牛等の頭数は7,338頭となっています。

また、酪農家の飼養する和牛・F1等の哺育素牛・肥育・和牛繁殖牛の総頭数は1,555頭です。

☆飼料作付面積

自給飼料の作付面積については、全体で2,086ha、スーダン・ソルゴー、とうもろこし、その他の順でした。

（生産支援課）

乳牛頭数等取りまとめ表（表1）

令和6年8月1日現在

	西大寺	備南	びほく	勝英	津山	真庭	おからく合計
乳牛飼養戸数 （対前年増減）	22 （-3）	22 （-1）	17 （-3）	24 （-5）	27 （-9）	36 （0）	148 （-10）
乳牛総頭数 （対前年増減）	1,005 （-8）	6,156 （83）	1,021 （-81）	1,800 （-48）	1,522 （-93）	2,707 （129）	14,211 （-18）
経産牛頭数 （対前年増減）	689 （15）	4,839 （80）	827 （-38）	1,425 （-95）	1,061 （-26）	1,844 （71）	10,685 （7）
経産牛頭数の占める割合（%）	6.4%	45.3%	7.7%	13.3%	9.9%	17.3%	
経産牛率（%）	68.6%	78.6%	81.0%	79.2%	69.7%	68.1%	75.2%
育成牛率（%）	31.4%	21.4%	19.0%	20.8%	30.3%	31.9%	24.8%
ホルスタイン種	994	6,145	1,020	1,800	1,522	1,166	12,647
ジャージー種他	11	11	1	0	0	1,541	1,564

※酪大第1牧場及び第2牧場は1農場とする。

おからく現況調査総括表(表2)

令和6年8月1日現在

		西大寺	備 南	びほく	勝 英	津 山	真 庭	おからく合計
酪農家戸数	搾乳農家	21	22	17	24	26	35	145
	育成農家	1	0	0	0	0	2	3
	合 計	22	22	17	24	26	37	148
関係機関戸数	搾乳農家	1				1	1	3
	育成農家						1	1
	合 計	1	0	0	0	1	2	4
酪農場総数 (乳牛飼養戸数)	搾乳農家	22	22	17	24	27	36	148
	育成農家	1	0	0	0	0	3	4
	合 計	23	22	17	24	27	39	152
肉用牛飼養農家戸数		4	6	4	9	14	3	40
総農家戸数(関係機関を含む)		27	28	21	33	41	42	192
ホルスタイン 頭数	6ヶ月未満	80	263	58	122	107	77	707
	6～24ヶ月	237	838	138	253	354	266	2,086
	24ヶ月以上	677	5,044	824	1,425	1,061	823	9,854
	合 計	994	6,145	1,020	1,800	1,522	1,166	12,647
	うち経産牛頭数	679	4,834	827	1,425	1,061	792	9,618
ジャージー他 頭数	6ヶ月未満	1	4	0	0	0	99	104
	6～24ヶ月	0	1	0	0	0	319	320
	24ヶ月以上	10	6	1	0	0	1,123	1,140
	合 計	11	11	1	0	0	1,541	1,564
	うち経産牛頭数	10	5	0	0	0	1,052	1,067
乳用牛総飼養頭数		1,005	6,156	1,021	1,800	1,522	2,707	14,211
経産牛頭数		689	4,839	827	1,425	1,061	1,844	10,685
乳用牛1戸当たり飼養頭数		45.7	279.8	60.1	75.0	56.4	75.2	96.0
乳用牛1戸当たり経産牛頭数		31.3	220.0	48.6	59.4	39.3	51.2	72.2

※酪大第1牧場及び第2牧場は1農場とする。

地区別酪農家戸数(育成農家・関係機関を含む)(表3)

令和6年8月1日現在

	平均 年齢	飼養頭数別酪農家戸数													計
		1～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～79	80～99	100～149	150～249	250～499	500～999	1000～	
西大寺	67.6	2	3	3	7	1	3	2	0	2	0	0	0	0	23
備 南	54.8	0	2	0	2	5	1	1	1	2	4	1	2	1	22
びほく	60.5	1	0	9	3	0	1	0	0	1	0	2	0	0	17
勝 英	55.0	0	0	5	3	4	3	2	2	3	1	1	0	0	24
津 山	58.7	0	4	3	4	2	4	4	3	2	1	0	0	0	27
真 庭	55.8	2	3	3	3	3	6	10	1	6	2	0	0	0	39
合 計	57.1	5	12	23	22	15	18	19	7	16	8	4	2	1	152

※酪大第1牧場及び第2牧場は1農場とする。

「経済的廃用候補牛選定」基準について

全国酪農業協同組合連合会 大阪支所 購買畜産課（中四国事務所駐在） 牛島 隆一

令和6年6月1日より全酪連大阪支所購買畜産課の畜産担当として、中四国事務所（鏡野町）駐在として赴任しました牛島隆一です。過去、平成25年8月～29年7月まで4年間岡山県北部地区の担当をしておりました。約7年ぶりに岡山県に戻ってきました。購買担当としてのキャリアはありますが、畜産担当としては初めての経験となります。できるだけ早く慣れて、組合員の皆様に貢献できるよう励んでまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

さて、世の中の進歩に伴い畜産担当者の仕事も7年前に比べ、とても進歩していました。例として、北海道への販売預託事業で若齢牛販売預託事業が追加され、若い月齢での預託が実現されております。また、牛の野帳も手書きからデジタルツールでの登録になり、スマホの写真での登録となっております。牛群検定におきましても、検証内容が赤ペンコメントで適切なコメントが掲載されるようになっていたり、こちら大きな進歩をとげていました。

今回は、この夏をなんとか乗り越えてはいるが、乳量・乳質等で経済的損失を生み出している牛を効率的に選定する方法について情報提供いたします。

手法としましては、牛群検定（検定成績表・個体累計成績）データから抽出して、候補牛選定し牛を確認して、どのタイミングで肉牛転売し、新たな精鋭群と入れ替えるかという流れになります。

これから、10個の項目を掲げますが、重なる項目が多い牛ほど、“経済的廃用候補牛”となります。

「経済的廃用候補牛選定」ステップ

*この選定事例数値は生産者個々の農場で変わります。参考数値として確認ください。

①乳飼比から赤字牛（粗利益マイナス）の選定

（税別・粗利益）事例

- ・生乳kg単価 130円
- ・1頭当たり飼料代 2,200円
- 1頭当たり飼料代÷生乳kg単価

*上記例では、乳量が16.9kg以下だと粗利益赤字となります。

②分娩目標間隔の設定

現在の分娩間隔より発情周期1周（約20日間）の短縮の目標を設定します。

例：分娩間隔440日ならば420日を目標へ

- ・目標分娩間隔 420日（14ヶ月間）
- ・乾乳日数 60日（2ヶ月間）
- ・搾乳日数（分娩間隔－乾乳日数） 360日
- ・空胎日数（分娩間隔－279日） 141日
- ・搾乳日数（搾乳日数÷2） 180日

*事例農家では、空胎日数141日以内に種が止っていない牛は目標分娩間隔をオーバーします。

平均搾乳日数180日以内に妊娠鑑定を行い、種が止っていれば概ね目標達成に向かっていきます。

目標分娩間隔420日の泌乳期経済的影響を参照（図1）

③牛群検定（検定成績表・個体累計成績）データより「305日実量または期待量」欄の下位10%以内の牛を選定します。

*305日乳量の下位10%を淘汰すると経営の効率が向上する傾向があります。

④牛群検定（検定成績表・個体累計成績）データの「牛評」にて乳量評価の低い牛を選定します。

合わせて遺伝的乳量評価との差異も確認します。

*乳量評価は全頭数を1～10ランクで評価されています。高いほど乳量が高いです。

⑤「高体細胞の回数」の多い牛を選定します。

検定成績表（個体検定日成績）で体細胞リニアスコア5以上（28万3千個以上）の回数を記載しています。よって数が多いほど乳房炎リスクが高い牛で慢性化していると思われます。

*牛群検定（検定成績表・個体累計成績）からの検証を参照（図2）

目標分娩間隔 420 日の泌乳期経済的影響(小林牧場版)

1024

附注：(一) 以上各表均按 1985 年数据

图 2

図3（健康な牛）と図4（病気と不快の牛）のイラストを参考ください。



図3

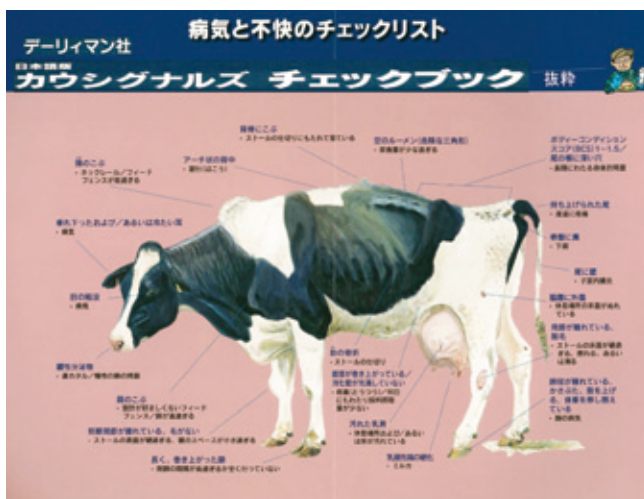


図4

（引用：デーリイマン社 日本語版カウシグナルズ チェックブック 乳牛の健康、生産、アニマルウェルフェアに取り組む）

- ⑥重度の蹄病に罹患している。（写真1）
* 治ることはありません。
- ⑦黄色ブドウ球菌（SA）感染牛
* 治ることはなく、感染源としてのリスクが高いです。
- ⑧乳房底面が飛節より低い
* 元にはもどりません。（写真2）
- ⑨乳房炎で3本乳の牛
* 将来的経済的効果はありません。（写真3）
- ⑩尻高（座骨が腰角より上）ハイピンの牛
* 尻門・陰部が斜め上向きのため「尿腔」になりやすい。（写真4・5）



写真1

①から⑤まで順番に検証し、多くのポイントが重なる廃用牛候補を選定し、⑥～⑩の項目から牛を見て、廃用牛と廃用予定を決めます。

まとめ

毎年、暑熱ストレスはゴールデンウィーク明けから起こっています。真夏になる前に、図4の「病気と不快の牛」のような状態のまま、真夏の暑熱ストレスを迎えると、図3の「健康な牛」に戻ることはありません。

夏時期の乾乳牛や分娩牛は特に暑熱ストレスを受けやすく、分娩事故が増えます。夏時期は受胎数が減り、気候が落ち着く11月以降から受胎数が増えていく傾向にあります。その結果、次の夏時期の分娩牛が増え、分娩が毎年夏時期に偏り、年間の泌乳サイクルでも夏分娩が増え、さらに暑熱リスクにさらされる牛の頭数が増えてしまう「負のサイクル」となります。この「負のサイクル」を少しでも回避するために経済的廃用候補牛選定を行い、月別の分娩頭数の平準化を目指し、精鋭牛群に作り替えて「負のサイクル」からの脱却する事を提案します。

ご相談は、「経済的廃用候補牛の選定」と「導入計画」は、おからく本所流通課担当者及び全酪連担当者までご相談ください。



写真2

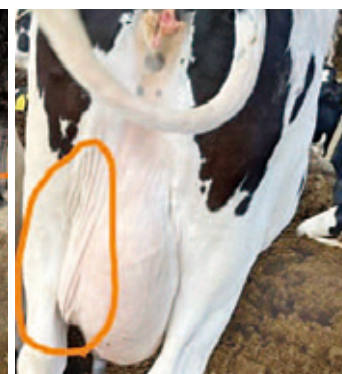


写真3



写真4

中四国事務所職員紹介

中四国事務所長 阿部真之介



日頃より大変お世話になっております。暑い日が続いており、生産者の皆様、関係者の皆様におかれましては、お体にご自愛ください。

今回は全酪連中四国事務所職員の紹介の場を設けていただき、誠にありがとうございます。

令和6年度8月人事にて事務所長を拝命することになりました。

厳しい酪農情勢が続いておりますが、組合役職員、関係者の皆様と一緒に一生懸命、仕事をさせていただきます。今後とも弊会職員一同どうぞよろしくお願いいたします。

岡山県担当（備南事務所駐在）

大島 達夫



長く岡山に関わらせていただきましたが、今年は雨の降り方の極端さや暑さなど記憶にないような夏

になっております。まずは皆様ご自愛くださいませ。

厳しい畜産情勢の中、県内はもちろん大阪支所管内においても畜産農家の数が大きく減少している状況になっております。未熟かつ微力ではありますが、一生懸命務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

岡山県担当（津山・勝英・蒜山）

伊藤 湧也



平素よりお世話になっております。秋風が吹くころとなりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

皆様、体調にはお気を付けてお過ごしください。岡山県北部を担当して早いもので6年目に突入しました。

組合員の皆様、組合職員、関係者の皆様日々勉強させてもらいながらお仕事をしてきました。酪農経営が豊かなものになるために有益な情報発信を心がけて尽力いたします。今後ともよろしくお願いいたします。

岡山県担当（津山・勝英・蒜山）

澤田 茜



大変お世話になっております。

令和6年8月付で中四国事務所に異動となりました澤田茜と申します。以前まで、酪農技術研究所の若齢預託矢吹牧場にて預託牛の哺育を担当しておりました。

推進業務に関しては、初めてとなります。至らないことが多々あるかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

岡山県担当（びほく・西大寺）

伊藤 舞優



いつも大変お世話になっております。岡山に来て早くも2年目と

なりました。昨年1年間では、多くの方々顔と名前を覚えていただきましたこと心より感謝申し上げます。また、知識も経験も未熟な私を牛舎で温かく迎えてくださり大変うれしく思います。今後は、迎えられる側から相談できる頼れるパート

ナーとして成長していきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

岡山県担当（びほく・西大寺）

永野 由美



今年度全酪連に入会いたしました、新入職員永野由美と申します。

酪農大学校での研修を経て6月下旬より中四国事務所に仮配属となりました。

至らぬ点も多々あるかと存じますが、皆様のお役に立てるよう頑張りますので、これからよろしくお願い申し上げます。

技術アドバイザー 石川 光宏



令和6年4月1日より中四国事務所勤務しています。以前は

工場にいました。酪農だけでなく、畜産業界全体を取り巻く環境は厳しいですが、微力ながら尽力したいと考えています。よろしくお願い申し上げます。

「供卵牛情報と採卵計画(10月分)」について

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所

10月の採卵計画をお知らせします。

ご利用の場合より詳細な情報が必要な場合は、最寄りの家畜保健衛生所、受精卵移植師等にご相談ください。

なお、能力評価を牛群検定成績から行うため、検定参加農家の方を譲渡対象としています。

また、採卵予定日や交配予定種雄牛は急遽変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

次回の採卵は11月15日を予定しています。

※ご要望・ご意見等ありましたら、畜産研究所までご連絡ください。

【優良牛】(選別性判別無し@32,560、雌判別@43,450)	供卵牛の遺伝能力評価等	採卵予定日
♀：OAC シヤーロット ビゲロ シャルル シヤーレッツテイ ET 登録番号：13909 7302 8 北海道導入牛の孫、産乳成分に優れる ♂：レッチワース (550H16110) ヤング米国4位相当、産乳成分・体系ともに優れる		10/10

交配精液は、長命連産事業対象 (@6,000円以内) です。
事業の詳細は、おかやま酪農協へお問い合わせいただくか、農林水産省のホームページをご覧ください。

在庫卵情報

採卵牛	総合指数	(順位)	系統	個体識別番号	種雄牛	性*	保存**	在庫数
シャルル	2702	1 %	シヤーレッツテイ	1390973028	バーゲーン (♀) 507H16163	判別♀ 選別精液♀	ガラス化 ガラス化	4 4
キルア	2628	1 %	キヤロットK	1354972012	パースーツ (♀) 777H11186	判別♀ 選別精液♀	ガラス化 ガラス化	1 3
キズナ	2537	1 %	チャシテイ	1509873652	オービット (♀) 507H15496	選別精液♀	ガラス化	4
キキ	2514	1 %	キヤロットK	1390973127	ハイプレシヤス (♀) JP61137	判別♀	ガラス化	2
ゼット	2363	1 %	ルドジツプ	1600872127	トツプシヨット (♀) 11H11779	選別精液♀	ガラス化	3
キヤシー	2344	1 %	チャシテイ	1607272593	キヤブテン (♀) 551H4119	選別精液♀	ガラス化	6
プクリン	2237	2 %	ペニア	1395174048	マグナム (♀) 507H15839	選別精液♀	ダイレクト	6
キヤスト	2136	2 %	チャシテイ	1354972036	デデイケート (♀) 551H3590	選別精液♀	ダイレクト	6 (追加)
ラビー	2044	3 %	ラベール	1600872271	フロストバイト (♀) 7H15821	選別精液♀	ガラス化	3
ボラーレ	1918	4 %	ボンビ	1379523800	タヒチ (♀) 7H14229 レネゲード (♀) 550H14134	判別♀ 選別精液♀	ガラス化 ガラス化	1 3
プリン	1774	6 %	ペニア	1536996850	パースーツ (♀) 777H11186	判別♀ 選別精液♀	ガラス化 ガラス化	2 3
キアリス	1731	7 %	キヤロットK	1407270799	フロストバイト (♀) 7H15821 アルコーブ (♀) 777H11000	判別♀ 選別精液♀	ガラス化 ダイレクト	1 12
キヤリー	1661	9 %	チャシテイ	1546371500	アルコーブ (♀) 777H11000	選別精液♀	ダイレクト	6
ヒリジツト	1361	18 %	ヒラリー	1378071203	オービット (♀) 507H15496	選別精液♀	ガラス化	4

※判別♀：受精卵を性判別、選別精液♀：性選別精液使用・卵の性判別無し
 ※※ガラス化：畜産研究所で融解、ダイレクト：移植時に融解移植

加茂料理講習会

7月25日、津山市加茂町福祉センターで、「ふれあい料理倶楽部」の方を対象に、牛乳を使った料理講習会を津山地区酪農女性部にお手伝いいただき開催しました。

「ふれあい料理倶楽部」では、65歳以上の高齢者を対象に、毎月1回料理を作り、互いに交流を深められています。毎年7月に講師依頼があり、牛乳乳製品を使った料理を作っ



料理風景

てきました。

今回は、「冷やしサラダ麺 梅ミルクめんつゆ」「じゃがいもと切り干しの鶏そぼろ煮」「ふんわりミルクつくね」「豆腐とかにかまのみるく煮」「ミルク水ようかん」の5品を作りました。

「冷やしサラダ麺 梅ミルクめんつゆ」は、夏の定番そうめんに好きな夏野菜をトッピングし、梅の酸味とミルクのまろやかさが絶妙のめんとつゆでヘルシーなサラダ麺に仕上げました。

「じゃがいもと切り干しの鶏そぼろ煮」は、カルシウムが豊富な切り干し大根を使い、じゃがいも・鶏ひき肉と一緒に牛乳とめんつゆで甘みとコクを出して煮含めました。副菜にもおつまみにも、お弁当のおかずにもおすすめです。

「ふんわりミルクつくね」は牛乳を入れることで癖が抜け、冷めてもおいしく食べられます。照り焼き風のたれにも牛乳を加え、まろやかな味に仕上げました。みじん切りのえのきたけが入ること

「豆腐とかにかまのみるく煮」は、とろみのあるあんが豆腐がホッとする中華風の煮物です。

「ミルク水ようかん」は、牛乳を入れることで水ようかんのコクとミルクキーさをプラスしました。甘すぎないので夏のおやつにぴったりです。

今年は、コロナ禍で中止になっていた試食を再開しました。大勢での試食は賑やかで楽しく、参加者の皆さんはおいしそうに召し上がっていました。

「全部の料理に牛乳を入れたから、似たような味になるのかと思って

いたけど、全部違った味でおいしい」「水ようかんはいただき物でよく食べる。自分でも簡単に作れて、牛乳を入れると綺麗な色になった。自宅でも作ってみたい」と感想が聞けました。

また、今回は【山陽放送 笑味ちゃん天気予報】の取材があり、津山地区女性部の藤木一予さんは「牛乳を使ってもらうという目的で一生懸命やっている。講習会をきっかけに牛乳を飲もう！」と牛乳を使って料理



牛乳乳製品を使った料理の数々

をしてみよう」と感心を持っていただけなら嬉しいですよ」とお話しされていました。

今後も、いろいろな活動を通して牛乳の消費拡大を行っていききたいと思っています。

牛乳には熱中症を予防する効果があるとされています。牛乳を飲んで、暑い夏を乗り切りましょう。レシピは、生乳課までお問合せください。

(生乳課)

オハヨー乳業スタンプリー

8月3日、おかやまコープ主催の「オハヨー乳業スタンプリー」がオハヨー乳業(株)本社工場において開催されました。

備前地区青年部・女性部が協力し、一般消費者120名の方に、牛乳の生産・製造・販売の工程を経験してもらい、牛乳が食卓に届くまでの体験をしてもらいました。

生産ブースでは、備前地区青年部員の指導の下、模擬搾乳牛を使っての搾乳体験や牛の体の仕組みや実際の飼料などを見学、製造ブースでは、工場内の製造ラインを見学後、



搾乳体験のようす

風味検査として3種類の牛乳(低脂肪乳・成分無調整乳・加工乳)の飲み比べ、販売ブースでは、工場敷地内に設置された商品陳列棚に、出路上がった商品を陳列する体験をしてもらいました。3ブースを回った後で備前地区女性部員による手作りの「牛乳もち」・「ラッシー」が振舞われ、消費者からは「おいしい」とお代わりをする方が相次ぎ、大好評でした。

夏休み中の親子体験ということもあって、メモを取りながら真剣に聞いてくる方、模擬搾乳牛で搾乳をして「出たよ!」と喜ぶ方、風味検査で牛乳の種類を当てた方・当てられなかった方、陳列体験を一生懸命にやっていた方など、夏の思い出の一つとして楽しまれていました。

試食の場所にあった牛型の掲示板には、「暑い中、いつも牛乳を作ってくれて、ありがとうございます」など、牛乳が好きになりました」など、うれしい言葉ばかりで、牛乳普及の一助になったのではないかと思います。

暑い中、ご参加いただいた消費者の方、ご協力いただいた備前地区青年部・女性部の皆さん、本当にありがとうございました。

(西大寺事務所)

びほく青年部視察研修会

8月7日、子どもたちの夏休みに合わせて「びほく青年部視察研修(家族親睦会)」がタカナシ乳業(株)岡山工場において行いました。

学校が夏休みとあって子どもたちを含め総勢16名の参加となりました。

タカナシ乳業(株) 野田係長より製品また工場等の説明をしていただきました。

場内では、集乳車の受乳場を見学させていただき、皆さん真剣な眼差しで見学され、自分たちが絞った牛乳が製品になることから、今以上に牛舎の環境、搾乳時の衛生管理を徹



説明を聞く参加者

底しなければいけないと再認識されていきました。

見学終了後は、北海道牛乳と岡山牛乳の飲み比べをさせていただき、味の濃さや風味を真剣に感じとっていました。皆さん生乳の出荷をされていることもあり、受け入れ検査はどのような検査しているのか、受け入れ検査で気を付けていること等質問をされ、とても有意義な時間が過ごせました。

タカナシ乳業(株)様には、お忙しいところ大変お世話になりました。ありがとうございました。

(びほく事務所)



工場内を見学しました

岡山県議会へ支援を要請



現状の説明と支援の要請を行いました

8月23日、岡山県酪農政治連盟は県議会議員 久徳大輔氏、副議長 中塚周一氏、農林水産委員長 大橋和明氏、農林水産副委員長 小倉博氏、岡山県畜産振興議員連盟会長 小林義明氏に対し、「県内酪農家は令和5年度10戸、令和6年度7月までに5戸の廃業があり、現在は149戸となり、生産現場では酪農家の点在化によるサプライチェーンの維持が困難となっている」

「今年も昨年に匹敵する猛暑・酷暑で災害級の暑さに襲われ、乳牛にとっても作業する酪農家にとっても厳しい暑さが続いている。暑熱ストレスにより生産乳量は夏の夏も急激に減少し、伸びを期待していた牛乳消費量も昨年を下回った」



岡山県議会へ支援要請

「生産乳量が減る。暑熱により乳牛が痛む。生産現場の厳しさに追い打ちをかけている」

「酪農経営は依然として厳しい状況にあり、業界以外にも改めて理解を求めたい」と現状を説明しました。

他県や市町村では、今年度も飼料価格高騰対策緊急支援事業（令和6年4月以降）を継続しているところもあります。岡山県は酪農（全国10位）・養鶏（採卵全国3位・ブロイラー全国11位）など全国でも有数の畜産県です。岡山県として持続可能な酪農を推進するよう国に働きかけていただき、再度持続的酪農支援への予算拡充、上限金額の引き上げの検討をお願いすることを要請しました。

（岡山県酪農政治連盟）

令和5年度「牛乳・乳製品利用料理コンクール岡山県大会」優良賞
岡山県立岡山南高等学校2年 南 愛奈さんのアイデアレシピ

スコッチエッグ風ホワイトソースのひき肉包み



★材 料（4人分）

牛乳	200ml
バター	20g
薄力粉	20g
コンソメ顆粒	小さじ1/2
A { 塩	小さじ1/4
こしょう	少々
合いびき肉	400g
B { 塩	少々
こしょう	少々
ベビーリーフ	40g
レモン	20g
ケチャップ(A)	大さじ1
マスタード	小さじ1
ナツメグ	小さじ1
揚げ油	適量
小麦粉	適量
溶き卵	適量
パン粉	適量

【ソース】

① { ケチャップ(B)	大さじ1
ウスターソース	大さじ1
砂糖	少々
② { マスタード	小さじ1
マヨネーズ	小さじ1
ヨーグルト	小さじ1

★作り方

- ①フライパンにバターを溶かし、薄力粉を入れ、ひとまとめにする。
- ②牛乳を少量ずつ加え、とろみがつくまで混ぜ、冷ましておく。
- ③コンソメ顆粒・Aの塩、こしょうを加えて味をととのえる。
- ④合いびき肉にBの塩、こしょう、ナツメグ、ケチャップ(A)、マスタードを加えて粘り気が出るまで混ぜる。
- ⑤全体を4等分にし、ラップの上に1/4の肉ダネを広げる。
- ⑥真ん中にホワイトソースをのせて、優しく包む。
- ⑦小麦粉→溶き卵→パン粉の順につける。
- ⑧160℃の油で7～8分揚げる。
- ⑨ケチャップ(B)、ウスターソース、砂糖を混ぜてソース①を作る。マスタード、マヨネーズ、ヨーグルトを混ぜてソース②を作る。
- ⑩ベビーリーフ、レモン、⑨を盛りつけて完成。

酪大フイールド研修

小原ももこ（総務部経理課）

中国四国酪農大で学んだフイールド研修に参加し、酪農についてさまざまなことを学びました。今回の研修は座学だけではなく、牧場実習もするというので、参加する前はとて不安でした。ですが、体験後は、座学だけでは学びきれない多くの発見や知識を得ることができました。日にちが経つにつれ不安な気持ちから「この研修で吸収できることは全て吸収して帰ろう」という気持ちに変わっていききました。

実際に牛の近くに行き、目の前にすると思いのほか大きくて怖いという印象でした。元々動物が好きということもあり、触ったりすることは平気だろうという気持ちでいましたが、牛の世話をするため近づいてみると迫力のすごさに怖気づいてしまいました。大きな牛を何頭も相手に仕事をするというこの大変さを知りました。

私は、研修を受けるにあたって「酪農を知る」という目標を立て、この研修に挑みました。酪農を知ることのできる業務への意欲がもっと高まっていけたらと考えたからです。座学では、搾乳理論をはじめとした酪農の基礎的な知識を学び、牧場実

習では搾乳や餌やり、糞尿処理などを体験しました。朝は早く、夜も遅く、すごく重労働だと感じました。

これを毎日欠かさず行うということとは簡単なことではないと身をもって痛感しました。「酪農を知る」を目標にしていたのですが、知るだけではなく、知った上で「酪農を理解する」ということが大切なことだと気づきました。酪農を理解することにつながると感じました。

5日間という短い期間でしたが、日々の計り知れない努力があるからこそ酪農という職業は成り立っているのだと感じました。研修を経て牛乳や乳製品は【牛】それから【牛をサポートしている人】がいるからこそあるものだとこのことを改めて強く感じるようになりました。

この研修を受けるまでは、私も一消費者として何気なく牛乳を買ったりしていました。消費者が見ることのない苦労があるからこそ、当たり前前に売り場で牛乳や乳製品が買えているという事実を忘れないよう過ごしていきたいと思います。

本当に貴重な体験をさせていただいた中国四国酪農大の皆様方をはじめ、周りの方々に感謝申し上げます。

たいと思います。

早水 美樹（総務部総務経理課）

中国四国酪農大で5日間フイールド研修に参加しました。講義と実習があり、講義では搾乳理論、飼養管理学、飼料作物、飼料学、飼養管理演習、家畜繁殖学、家畜衛生、酪農基礎学について学びました。酪農に関して全く知識がなく驚くことが多く楽しく講義を聴くことができました。

実習では、第1牧場と第2牧場の作業を体験させていただきました。

第1牧場では、主に牧場の餌やりや除糞、搾乳と哺育を行いました。特に前搾りからミルカーを装着する作業で牛の足が乳で見えにくく、かがんだ状態での作業は負担がすごく、この大変な作業を毎日行っている酪農家の方はすごいなと感じました。

哺育では、前の餌を取り除く際に子牛が腕を吸ってきたことが思った以上に強くびっくりしました。

第2牧場では、搾乳や牛追い、除糞やオガを敷くことを行いました。

前搾り等は、第1牧場よりやりやすかったです。牛をパーラーまで移動させたり、牛がいない間に除糞しなければならなかったりとまた

違う大変さを感じました。

講義や実習を通じて酪農家の方たちがどれだけ手間をかけているのかを知ることができて良かったです。

坂本 彩花（総務部経営支援課）

私は酪農家の仕事に対し、牛を飼う牛乳を販売するという漠然とした考えしか持っていませんでした。おからくへ入組後、実際の酪農家の仕事を目の当たりにし、考えていたよりはるかに過酷な仕事であると感じました。そこで、実際の作業体験や酪農の知識を深め、農家目線で酪農経営と一緒に考えたいと思い、今回の研修を希望しました。

まず初日、講義で搾乳理論を学びました。搾乳の手順やなぜ前搾りが必要なのかを模型に触れながらわかりました。実際の搾乳では、最初に乳頭の汚れを払い、前搾りを行いました。その際、カップに「ブツ」と呼ばれる乳塊がないかを必ずチェックし、乳房炎の早期発見に努めていることを学びました。その後、次亜塩素酸につけたタオルで乳頭の汚れを拭き取り、ミルカーを装着しました。治療中の牛は搾乳禁止、盲乳の牛はミルカーの設定を変更するなど牛個々に注意する点が多くありました。また、前搾りやミルカー装着などは屈んだ状態で作業をするため、



身体的負担が大きと感じました。哺乳実習では子牛の哺乳給与を体験しました。吸吮が難しい子牛の顎を下から支えて固定し、哺乳瓶の角度やタイミングを慎重に計りながら行いました。実際に体験して、子牛の吸吮の強さに驚いたと同時に誤嚥を引き起こさないようにしなければならぬ緊張感も感じました。第一牧場・第二牧場共に子牛に感染病が発症しないよう哺乳で使用した器具

は消毒液につけるなど衛生管理を徹底していました。

飼料管理の講義ではただ飼料を与えるだけでなく牛の状態やタイミング、配分量、種類などを考えながら給餌していることを学びました。実際に、一種類の餌を与えて終わりではなく、時間をかけて何種類もの餌を決まった順番に与えました。牛が健康でありながら乳量を確認することがどれだけ大変か、給餌を体験し

研修風景

身に染みて感じました。今回の研修で当初の目的である農家目線に立ち、酪農業を知ることについて、無知であった部分の知識がつきとても有意義な研修になりました。

講義から、酪農家は物価上昇など先の見えない経営状態の中、どのように牛を飼育していくかも課題であると感じました。また、牛の知識だけでなく経済や環境、その他多くの知識が必要となり、酪農経営の大変さを改めて考えさせられました。酪農は行動力、忍耐力が不可欠で誰にでもできる仕事ではないと思

ます。そのために、少しでも酪農家の負担を減らし、効率良く楽しい酪農をしていただきたい思いが強まりました。この思いを日々の業務に生かし、励みたいと思います。

この研修にご協力くださいました学生、先生方ありがとうございました。

生産支援課 松尾 聡子

7月17日から5日間の酪農ワールド研修に参加させていただきました。牧場実習16時間、搾乳、飼養管理、ロープワーク、飼料、繁殖、衛生、酪農業の現状など酪農についてさまざまなことを牧場と座学で教えていただきました。

中でも印象に残っている講義は、実際に牛をつかって結び方を教えていただいたロープワークの講義です。まず、柵にロープを結ぶ練習を行いました。簡単そうに見えて難しく、何度も先生に教えていただき、やっと柵に結ぶことができるようになりました。次のステップとして、実際に牛を縛る練習を行いました。もたついていいると牛が移動してしまつてスムーズに縛ることができず、とても悔しかったです。何度かチャレンジして成功するととても嬉しかったです。「一度できるようになつたからといって、練習しないと

忘れてしまう。体に染み込ませるといざというときにスムーズにできる」と先生から教わり、ロープワークだけではなく、何事も日々の積み重ねが大切ということを学ぶことができました。

飼料にもたくさん種類があり栄養素や収穫時期が違うこと、牛は約280日の妊娠期間を経て分娩をすること、出産後乳量が増加しそして徐々に減っていくこと、乳が出ている期間でも妊娠できること、繁殖を改善することが大切ということ、乳量が1産より2産、2産より3産、3産より4産と多くなることなどとても多くの知識を得ることができました。実習に関しても、とても貴重な経験ができたと感じています。

最後になりましたが、お世話になつた中国四国酪農大学の先生並びに学生の皆様に感謝申し上げます。この研修で得た知識と経験をこれからの業務で活かしていきたいと思ひます。ありがとうございました。

小嶋 真琴（津山事務所）

中国四国酪農大学校にて、酪農ワールド研修へ参加させていただきました。5日間の研修では講義と牧場実習を行いました。

講義では、さまざまな内容について幅広く教えていただき、基礎とな



る知識を知ることができました。
実習では、実際に牛舎に行き、牛に触れて作業をして、牛の扱い方や牛舎について知ることができました。

搾乳をしてエサをあげると表面上ではそれだけに見えていましたが、もともと奥が深くたくさん作業があり、早朝と夜作業をされている酪農家の方の大変さを少しの期間だけでも感じ、全く知ることのな

児玉将竜郎（蒜山事務所）

今回の研修で学んだことを日々の業務に生かしていきたいです。
最後になりましたが、中国四国酪農大学の先生や学生の方々に大変お世話になりました。感謝申し上げます。

今回6日間の日程で中国四国酪農

小鴨・早水・小原・小川・松尾・児玉
前列左から
後列左から

大学校へ酪農フィールド研修に参加してきました。普段なかなかできない経験をする事ができ、今後の業務へ生かすことのできる研修内容でした。

おからくに勤め始め、10ヶ月程が経過しようとしています。しかし、酪農に関する知識が広く浅く漠然としていて決して詳しいものではない私にとって日々の業務はわからないことばかりでした。今回の研修では講義と実習の2つを通じて酪農家の方々が普段どのような作業をされているのか理解を深めることができました。

講義の内容は、牛のライフサイクル、搾乳理論、飼養管理、繁殖、牛舎環境について学びました。今まで漠然としか理解できていなかった内容についての講義内容だったのでとても勉強になり、理解を深めるきっかけとなりました。

実習では繋ぎ飼いの第一牧場、パララーの第二牧場の両方で搾乳実習がありました。全く異なる形態での搾乳実習でしたが、どちらの牛舎でも搾乳手順が明確にマニュアル化されていて、搾乳する人がわかりやすいように工夫がされていました。他には両牧場とも餌の準備や牛床の掃除、餌寄せを行いました。日々の牛舎作業ではさまざまなことに目を向け、牛の変化に気を配る必要があります。そうすることで、異常乳の発見や発情を見逃さないことにつながり、また、日々の気づきは結果的に安定した経営にもつながります。1日の牛舎作業の中で搾乳、餌の準備、牛床の清掃、子牛の世話、繁殖など酪農家の方の仕事は多岐にわたります。

今回の研修を終えて、一部かもしれませんが、酪農家の方が日々どのような作業をされているのか、また、講義を通じて牛の生態、牛舎環境、酪農業界の現状について短い期間ではありましたが学ぶことができました。



ました。
酪農家の方は365日毎日休みなく牛と向き合っておられます。今後とも組合職員として、皆様のお力になれるように努力をしていきたいと思っています。

ひろば

元気が一番！

津山事務所 兼宗 修平

皆様は、今年開催されたパリオリンピックはご覧になられましたでしょうか。私は妻と2人でバレーボールを食いつくように見ていました。2人とも経験者ではないのですが、声を出しながら応援し、私は美容院で男子バレーの西田選手みたいな髪型にしてくださいとお願いするほど夢中になりました。

オリンピックイヤーだから、というわけではありませんが、今年から私は健康のために始めたことがあります。それは運動をすることです。中学生の時から20歳までバスケットボールをしてきましたが、それ以後全くといっていいほど運動はしてきませんでした。そんな私も30歳を過ぎ、何かしなければいけない、という思いが突然湧いて出てきて、勢いのまま運動施設に登録しました。通い始める前は、それでもバスケしていたから大丈夫という謎の自信だけはありませんでしたが、実際に行って器具を使いトレーニングしたのですが、筋肉が悲鳴をあげてしまいました。

た。

それ以来、私は、最低週2回運動施設に通うことと、毎朝プロテインを飲むことを決めました。腹圧を意識したトレーニングと牛乳で溶いたプロテインを飲むことを続けて半年、以前と比べると自分でもわかるくらい健康になった気がします。やっぱり元気が一番ですね。



愛用のシューズ



理事会報告

7月31日、第288回理事会を理事9名、監事3名が出席し、開催した。

檜尾組合長より酪農一般情勢等について報告された。

その後、次の事項を協議し、決定した。

○令和6年度生乳需給安定化対策について

令和6年度6月の生乳需給安定化対策の進捗状況等について報告した。

○出資減口の申込について

減資申し込みが1件あり、酪農中止による出資減口の申し込みのため、やむなく承認した。

○きびじ酪農運輸の要請の対応について

きびじ酪農運輸の要請の回答について協議し、きびじ酪農運輸と再度交渉の上、次回理事会に報告することとした。

○全戸巡回の留意事項

全戸巡回の留意事項の内容について

て協議し、承認した。

○ヘルパー利用料金の改定及び規約の一部変更について

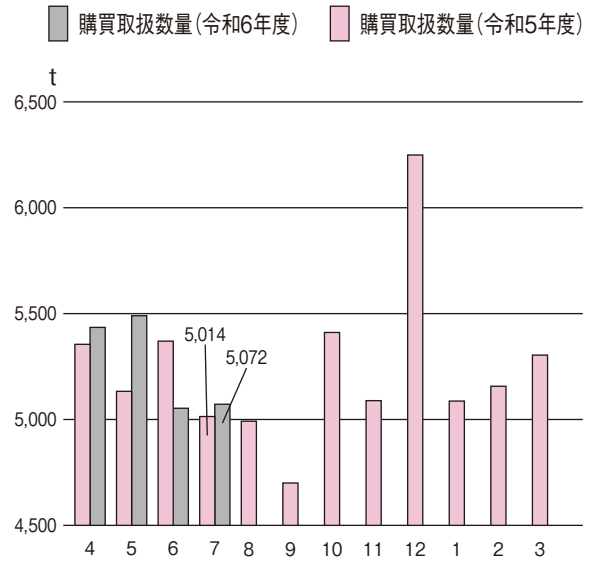
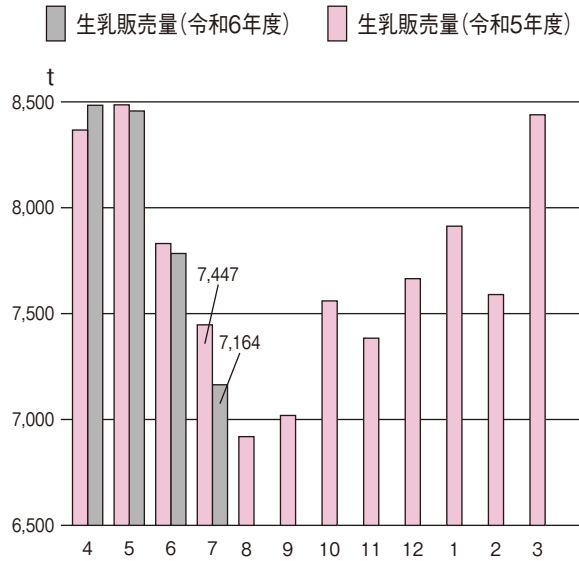
ヘルパー利用料金の改定及び規約の一部変更について内容を協議し、ヘルパー利用料金の改定及び規約の変更を承認した。

○報告事項

第1四半期苦情等の報告について、第1四半期の監査日程について、県畜産共進会について、組合員数の状況について報告した。



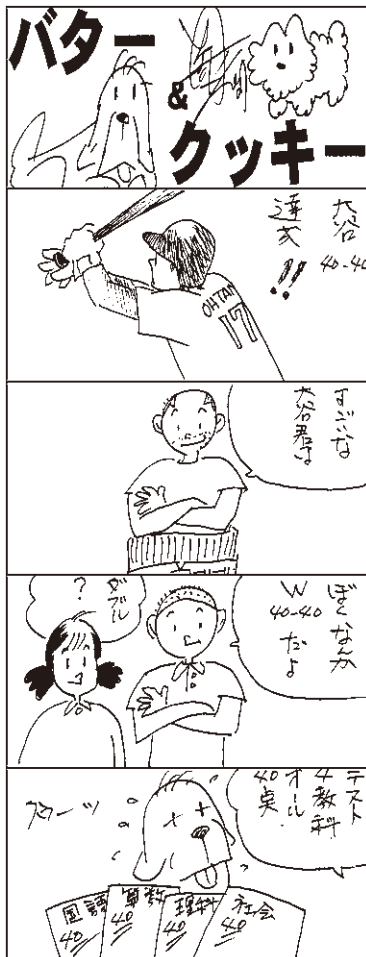
おからく事業実績



生乳統計

※中央酪農会議速報より抜粋

地域	月	生産量 (トン)	用途別処理量 (トン)			前年比 (%)			
			飲用乳等向け	乳製品等向け	その他	生産	飲用	乳製品	その他
全国	7	560,708	284,086	130,432	146,190	97.4	95.6	98.1	100.4
	4～7	2,333,957	1,137,333	613,987	582,554	99.3	97.0	102.0	101.2
岡山県	7	7,164	7,021	81	62	96.5	96.8	87.1	81.6
	4～7	31,890	29,547	1,966	376	99.4	96.9	160.6	99.2
北海道	7	329,427	69,336	118,421	141,670	97.8	90.2	99.5	100.5



主な行事

9月

- 13日 おからく瀬戸内
ホルスタイン共進会
- 18日 蒜山地区乳牛共進会
- 20日 管理職会議
- 25日 牛乳・乳製品利用料理コンクール
書類審査会

10月

- 1日 現物監査
牛乳大好き絵画コンクール審査会
- 11日 岡山県畜産共進会 (～12日)
- 19日 牛乳・乳製品利用料理コンクール
岡山県大会
- 22日 管理職会議
- 30日 理事会

北海道初妊牛価格

8月については、猛暑の影響による暑熱事故に対する警戒感から、導入需要にやや落ち着きが出たことから、平均価格は税込43万3千円（前月比1万4千円安・前年比1万3千円高）と回復基調で推移した。

9月については、秋分婉が出回りの中心となり、猛暑の影響も緩和されるなか、暑熱事故等の代替など一定の更新需要が見込まれることから、相場は強含みで推移することが予想される。